

令和4年度 第3回大山崎町社会教育委員会議（報告）

- I 日 時 : 令和4年11月29日(火) 午前10時～同11時30分
II 場 所 : 大山崎町役場 3階 中会議室
III 出席者 : 17名
○ 出席委員（7名）
○ 事務局（10名）
教育長・教育次長・学校教育課長・生涯学習課長・中央公民館長・歴史資料館長・文化芸術係総括主幹・体育館長・生涯学習スポーツ振興係員2名
- IV 会議名 : 令和4年度第3回大山崎町社会教育委員会議
V 内 容 : 以下のとおり

【要点】

2件の議題（(1) 令和4年度社会教育委員関係事業報告について、(2) 令和4年度生涯学習課関係事業報告について）について、審議のうえ、いずれも承認された。

また、事務局から4件の報告を行った。

なお、傍聴希望者はなかった。

- | | |
|-----------|-----|
| 1 開 会 | 事務局 |
| 2 教育長あいさつ | 教育長 |
| 3 委員長あいさつ | 委員長 |

※ 大山崎町社会教育委員会議運営規則による会議成立の宣言（定足数を満たす7名の委員の出席を確認）

4 議 題

※ 以降の進行は委員長が担当

- | | |
|-----------------------------------|-----|
| (1) 令和4年度社会教育委員関係事業報告について | 事務局 |
| 事務局から8月から10月までの町社会教育委員に関する事業実績を報告 | |

* 質疑応答

<京都府公民館大会について>

委員

動画配信を見ましたが、京都府医師会感染症対策委員会の先生による新型コロナウイルス四方山話が大事なことを話されていて印象に残りました。

若い世代に予防接種の副反応について知ってほしいことや、特に感染した子どもたちに対して後遺症に関する話を個々に丁寧に聞いてあげてくださいと話されていました。高齢者に対しては、身体的衰えや認知症、心理的衰え、閉じこもりといった課題がたくさんあること、70歳以上の死因は施設内感染がどうしても多くなるのでウイルスを持ち込まないことがポイントになると仰っていました。また、これから第三のウイルスによる感染拡大が起こる可能性があるので、課題として、心が疲弊していくことを防ぎたい、嫌悪や偏見や差別が生じないようにしたいといけないということを仰っていました。

委員

特に子どもの話をしっかり聞いてあげることが大事ですね、どうしても正確に伝えることができないので。

ようやく収まったと思ったら先日は2週連続して日本の感染者数が世界一になっており、同じことを繰り返しているのが気になります。新聞では、確かに軽症で済んでいるけれど、後遺症が長引くといった記事もありましたし、後で認知症に繋がる恐れがあるという学説も出ているそうです。やはり感染しないのが一番かなと思いました。

<近畿地区社会教育研究大会について>

委員

基調講演では、「社会教育委員としてどうもあるべきか」という話をしっかり聞かせていただきました。その中で、社会教育委員が必要であるということを通条的に仰いました。一つは自治体の社会教育は市民参加であるということ、二つ目はオンブズマン的な役割であるということ、三つ目は行政と市民の間の橋渡し役であるということなどを仰って、その前にも講演を聞いたことあるのですが、同じようなことを仰っていました。

その中で、やはり子どもの話が一番気になりました。最近の子どもは、学力はあるけれども、自己肯定感が低い。外国ではボランティアをする子どももすごく多いのですが、日本は少ない。その大きな原因は自然を体験する子どもが少ない。博物館とか美術館に連れて行く機会も少ない。それからキャンプやスポーツをしている子どもが少ないことが原因ではないだろうかというお話をされました。

それで、社会教育委員としてこんなことをするというお話よりも、最後に「期待しています」と締めくくられたのですが、期待されたらかえってしんどくなるというか、気になるようなお話でした。

委員

文教大学の教授が講演されたのですが、まず社会教育委員はこんなにたくさんの仕事をしなければいけないのかと、とても私には務まらないと正直思ってしまいました。ただ、後半で子どもたちの様子についてのお話があり、調査結果から各年代で自然体験が減少傾向に見られること、自然体験の少ない子どもほど探究心が育っていないというデータを示されました。ただ、私は星空を見たことがあるとか、川で泳いだことがあるとか、調査の方法が難しいので仕方がないのだろうなと思って聞いていましたけれども、本当にそれが自然体験なのかなと思いつつながら聞いておりました。

それともう一つは、いじめの全国的な傾向についてお話されました。最近は小学校でのいじめが増えており、暴力事件も増加しているということを知りました。また、子どもの貧困も大変憂慮される状況であること、生活困難層の割合が増えていて低年齢化していると示されました。

委員

私は「京都府の地域づくり」という分科会に参加させていただいたのですけれども、このテーマが、「前例・手本・答えのない時代の地域運営～経営的視点を持って～」という、私にはよくわからない内容だったのでしたが、丹後地域でこのように地域を活性化させてきましたというお話を聞き、すごく画期的な活動をしていらっしゃると思いました。グループ活動でもお互いの地域について議論したりしたのですけれども、大山崎町に持って帰ってどのように活かしたらいいのか、私自身もなかなか難しいなと思いました。

社会教育委員に期待される役割で、やはりとても大事なことは、若者と一緒になってプランを立てていくことで、地域で成長した若者が必要なものをチョイスする意見が大事なんじゃないか。また、やっぱり長いスパンで見るということも大事で、活性化している地域は、そういうところに力を入れておられると感じました。

委員

この京丹後市の取組については、先日の京都府社会教育研究大会でも発表されていたのですが、丹後地域は、Uターン、Iターンで戻ってきたら、仕事があるということで、そういう点が大山崎町とはちょっと違うなと思いました。農業も漁業もでき、企業の誘致や他の地域から移り住まれる方もあるということでした。人数が少ない集落は多いけれどもそうやって活性化している。年齢層のバランスよく活動されているなというように思いました。

委員

一つ頭に残っているのは、地域に戻ってきた人に対して安価で住宅や仕事を提供するなど、自治体がすごく手厚い支援をされていて、「帰って来てよかった」と喜ぶ人も多いというお話でした。

委員

私が参加した分科会は「学校・家庭・地域の協働」というテーマでした。特に、地域と学校の連携・協働ということで、私も大山崎町でときめきチャレンジ推進事業に携わらせてもらっていますので、ちょうどお話も聞かせていただいていたよかったですと思います。

兵庫県の加東市の生涯学習課職員の方から、去年の4月に立ち上げられた放課後子ども教室のお話でした。加東市でも大山崎町と同様に運営委員会が子どもたちにいろんな体験機会を提供されているということでした。コミュニティスクールも、去年立ち上げられたばかりで、大山崎町でもそのような話が出ていると思いますが、地域学校協働本部を設置しておられて、やはりしっかり組織をつくってからでないか、コミュニティスクールはしんどいのかなという気がしました。

特に加東市が恵まれているのが、兵庫教育大学の近くらしく、学生ボランティアがすごく協力してくれているそうです。やはり放課後子ども教室のお手伝いをしてくださる方には大学生がすごくいいと思います。

委員

私は第5分科会の「人権教育」に参加させていただきました。テーマは「全ての人にとって生きやすい社会をめざして～子育て中の外国人ママの居場所づくり事業から～」ということでした。

豊中市の取組です。豊中市は約40万人の人口のうち、外国籍住民が約6,200人で約1.5%を占めているということで、外国籍住民の内訳は、韓国、朝鮮、中国、ベトナム、フィリピン、ネパール、インドネシア、タイなどアジアの国が約9割を占め、お父さんが日本人で、お母さんが外国人というケースが大変多いということでした。

お母さんは子育てをする中で言葉が通じないということで、お母さんを対象にした相談サービス事業などに取り組んでおられ、特に「親子で日本語」という取組では、参加者が子育て中の女性であるということが特徴であるとのことでした。困っておられる外国人のお母さんにどうやって広めるか、言葉が通じないので入りにくいという課題がある中で、場所づくりのため、事業の2年目から図書館を活動場所にすることができたことにより、参加者が広がってきたということでした。

参加されたお母さんからのいろんな感想が載っているのですが、「最初は怪しいかもと思ったけど、図書館だから安心かな。ちょっと行ってみようと思って参加した。」というようなことから、どんどん広がっていったことが発表されました。

討議では、あんまり活発に意見は出なかったのですが、子どもが中学生、高校生になった親の集まりもつくって欲しいという声が出ているということでした。思春期に差し掛かった子どもたちが自分のルーツと周りの目に思い悩み、困っているお母さんが多いのだなと感じました。

◎各委員が承認

- (2) 令和4年度生涯学習課関係事業報告について 事務局
事務局から8月から10月までの生涯学習課関係の事業実績について「生涯学習・スポーツ振興係」、「体育館」、「文化芸術係」、「中央公民館」、「歴史資料館」の順に報告

*質疑応答

〈ときめきチャレンジ推進事業「スター・ウォッチング教室」(10月1日開催)について〉

委員

ときめきチャレンジ推進事業「スター・ウォッチング教室」を開催されたときに、75名の参加希望があり、抽選の結果、24名参加されたとのことですが、何か残念な気がします。安全面のことなど配慮しなければいけないことがあってのことだろうと思うのですけれども、夜間の屋外での教室であったと思いますし、もう少し多くの子どもたちが参加できた方がよかったのではないかなと感じました。

委員

私も携わっておりましたので、報告いたします。新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、25名の募集とし、多くても30名までで止めたかったのですが、応募が多く、夜間のため必ずお母さん、お父さんに付き添ってもらうことにもしていたため、子どもが25名でもすでに50名になり、実際に来られたのは70名を超えていました。子ども1人の参加申込であっても、お父さん、お母さん、弟妹さんも連れての方もありましたので。

それぐらい人気があったとは思いますが、ときめきチャレンジ推進事業として晩にこういう教室を開催することは初めてで、やはり事故など危ないので、特に気を遣いました。

事務局

ご意見を頂戴しましたので、この度の結果を受け、今後の事業についてどのようにしていくかということも含めまして、ときめきチャレンジ推進事業運営委員会の中で、協議していただけたらと考えてところでございます。

委員

望遠鏡の台数によって参加人数がやっぱり変わってくると思うのです。参加しても覗けなかったらいけないので。この時は何台用意されたのですか。

委員

2台持って来られていましたが、子どもだけでなく、お父さん、お母さん、弟妹さんも順番に見られるので、長蛇の列ができて、スタッフはまったく見ることができないくらいでした。

委員

子どもにとってはいい経験になったと思いますね。ちょうどこのときは惑星が見られる時期だったので、よかったのではないのでしょうか。

<町民が輝くまちづくり講座（9月18日開催）について>

委員

中央公民館で開催された「町民が輝くまちづくり講座」について、町民の方が講師となり、20名の参加があったということですが、具体的にどんな内容であったのでしょうか。また昼に実施されたのでしょうか。

事務局

3名の方を講師でお招きしまして、まず民生委員や保護司として活動されていた経験豊かな方からご自身の経験を語っていただき、次に朗読の活動をされている方には実際に朗読の実演をしていただきました。最後は、琴の先生をされている方から地域での活動を報告していただく形で、3名の講師のリレー形式で、それぞれのご経験や取り組まれている内容等をお話しいただいたものです。

当日は午前中、10時から開催しました。

<子どもの自習室（8月12日～18日）について>

委員

子どもの自習室の写真には、子どもが2人写っている様子ですが、どんな状況だったのでしょうか。

事務局

子どもの自習室については、昨年度までは子どもだけの自習となり、図書室で借りた本を読む場所として開放し、時々職員が見回る形でしたが、今年度はときめきチャレンジ推進事業と共催しまして、指導員というか見守る方を配置した形で開放しました。写真には自習中の子どもと見守っているスタッフが写っているものです。ただ、やはり自習室を開放できるのがお盆の時期ということもあって、思ったより利用者が少なかったので、来年度実施にあたってはいろいろと検討していきたく思います。

委員

子どもたちが中央公民館に来て勉強したり、宿題したりすることはやってみたらいいなと以前から思っていたのですが、先ほど報告しました加東市の場合は、兵庫教育大学の学生がボランティアで来てくれて、2時間の中で、学生さんに教えてもらって宿題をして、その後学生さんと一緒に遊ぶという事業をされているので、ものすごく人がいっぱい来るのですね。ですから、やはりどういう方が講師に来ていただけるかによるのではないかなという気がしました。加東市の場合は、教育大学があって、多分先生になろうという方がほとんどだと思うので、その学生が子どもと一緒に遊んでくれるのはとてもいいなと感じました。残念なが

ら、大山崎町にはそういう大学はありませんが。

◎各委員が承認

<学校における児童・生徒の様子について>

委員

第1回会議から願望していたことがありまして、社会教育委員として学校からも来てくださっているのですが、社会教育は子ども抜きにしては考えられない事業だと思いますから、子どもたちの実態についてお聞かせいただきたく思うのですが。

委員

実は私もそう思っておりまして、(会議の始まる前に)少しお話いただければとお願いしたところでした。前回まで発言していただく機会を設けなかったのも、申し訳なく思っております。今、ご意見がありましたように、実は他の方からも同じようなご意見を伺っております。簡単で結構ですので、お願いできますでしょうか。

委員

コロナ禍の中で、大山崎中学校でも3年ぶりに体育大会、それから文化祭で演劇、合唱を実施することができました。3年生が演劇を、1・2年生は合唱を行いました。今回は3年生の該当クラスの保護者だけが入れ替わって観ていただけのようにしました。それから、感染拡大防止の観点から体育館に3学年とも入ることがまだNGですので、3年生の演劇を1年生が入れ替わりながら観て、1・2年生の合唱も当該学年だけでなくもう一学年がローテーションしながら観ることができるよう工夫しました。これは3年生の頑張っている姿を1年生に見せたいということと、それから1年生も3年生に見てもらえるという、3年生に対する憧れの気持ちもありますので、複数の学年同士で交流できるような形をとりました。

本番はもちろんいい演劇、いい合唱でしたが、その取り組みの過程で、子どもたちの練り合い、そして成長が見られて、そういう意味でもとても意義のあることであったと感じました。また、おかげさまで、大きな行事によって感染が広がったことは一切ありませんでしたので、よかったと思っております。

日頃の授業につきましても、距離は気をつけながらですけれども、ようやくグループ協議やペア学習で同級生同士の学び合いや意見交流といったことができるようになってきているので、その面でもよかったかなと思っております。それが学力に直結するかどうかはちょっと別の問題ですけれども、やっぱり関わりという部分、繋がりという面では、一昨年、昨年とコロナ禍により学校教育が成り立たなかったことから比べますと、かなり前に進んでいると感じています。

子どもたちの中には、不登校や、大勢の中で生活するのが苦手であるとか、決められた時間で行動することに抵抗があるとか、そのような子どももおりますけ

れども、ウィズコロナになってきて、元気に優しく生活できているなというように思っております。

また先週から今日まで2学期の期末テストでしたが、大きな行事が終わって、スムーズに学習に切り替えることができているなど感じています。

今日たまたま、地域の方から「授業のプリントだと思うのですが、家の前で落ちていたので、今から持って行きます」という温かいお電話があり、「こちらから取りに行きます」と返事して取りに伺ったのですが、地域の方からを支援してもらっているなど感じるがありました。以上です

委員

2年間のブランクがあって、体育大会や文化祭は子どもたちが毎年見てどうするのかと学んでいくのですが、それがなかったのも、ちょっと難しかったのではないかなと思って聞かせていただきました。ありがとうございました。

委員

第二大山崎小学校ですが、私からは学校行事と先ほどお話しがありました自然体験について報告させていただきたいと思います。

学校行事について大分進んだところと言えば、運動会の保護者参観の人数制限が今年はありませんでした。できるだけ少なくという願いはしたのですが、制限がなくなったということです。それから、12月1日に人権学習参観を行います。今までは時間を区切った分散型だったのですが、やっぱり全部観ていただいたほうが良いということで、時間の区切りなしで参観してもらうということで、時間の制限がなくなりました。その後の懇談についても、参観に続いて懇談するという形は、コロナ禍で初の開催になります。12月の終わりには、「ありがとうの会」といいまして、普段お世話になっている見守り隊の方や、農園ボランティア、図書ボランティアとして来ていただいている方をお招きして、感謝の気持ちを伝える会というのを開催する予定です。感染症対策をしながら、人と関わっていくということが少しずつ増えてきているという状況です。

自然体験については、第二大山崎小学校は各学年の子どもが少ないので、少人数であることを生かして、4・5・6年生で天王山の学習を進めています。4年生は秋に天王山登山をしました。5年生はどんぐりプロジェクトとして、町の環境担当の方と一緒に進めており、6年生は天王山の歴史学習を社会科と関連して行います。低学年については、ボランティアの方に協力していただき、サツマイモとかコーンを栽培し、収穫して味わっているところです。

とても落ち着いているというか、穏やかな子どもたちが多く、先日、社会見学に行った際のバスの運転手の方から「すごく挨拶もきちっとして、乗っている時のマナーも良くて、本当にいい子たちですね」と褒めてもらったことがありました。以上です。

委員

私も小学校の近くに住んでいるのですが、「運動会かな」と思うくらい静かで、

ちょっといつもとは違うな、昔は大きな音楽が鳴っていたけれど、全然聞こえないというようには思っておりましたが、できてよかったですね。

委員

つい先日も、コロナ禍の中で小学生の心の問題、不登校、いじめが多くなっていると報道されていましたが、大山崎町に関しては平和であるということなのですね。

委員

中学校は 400 人の子どもたちがいて、それぞれ個性も、考え方もありますし、思春期ですし、それはもういろんなことが起こります。トラブルもありますし、家で何か嫌なことがあってというようなこともあります。ただ、この 3 年間のコロナ禍が、10 年後、この子たちが 20 歳を超えたぐらいの時にどんな影響があるのか、今は目の前のことに一生懸命取り組んでいるのですけれど、将来的なことは心配ですね。

委員

子どもたちが集まれば、何かトラブルが起こるのが普通で、何もなかったらむしろ不思議なのです。そういうことを通じて、子どもたちがだんだんいろんなことを学び、成長していくと思うので、外からあまり騒ぎ過ぎるのはよくないなといつも思っているのですが。

子どもたちが落ち着いているのは、家庭生活が落ち着いているという面が大きいのではないかなというふうに私は思っております。

※ これ以降の進行は事務局が担当

5 その他

事務局

事務局から次の 4 件について報告

① 町議会定例会（9 月）における一般質問・答弁について（生涯学習課関係）

② 部活動の地域移行にかかる検討会議提言の概要について

③ 中央公民館改築整備計画に伴う中央公民館の取組と課題について

④ 今後の主催行事等について

（天王山カップ少年少女フェンシング大会、社会教育団体交流会、二十歳を祝う会）

6 閉会あいさつ

副委員長